

日本の招き猫

動画リンク : <https://youtu.be/QaOgjcmGeNA>

日本の招き猫

今回は「日本の招き猫」を学びながら、日本語を勉強しましょう。

この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には「ふりがな」があります。後半は少しだけ速く(+20%)なり、漢字に「ふりがな」はありません。学習にお役立てください。

招き猫とは

招き猫は、日本の伝統的なお守りの一つです。多くの家庭やお店に置かれています。お守りとは、悪魔から守ってくれたり、幸せな出来事が起きたり、人の願いを叶えてくれる昔から日本に伝わるアイテムのことです。「招く」とは、手を振ったり、親指以外の4本の指を前後に動かして呼び寄せることです。多くの海外では、手を振ったり、親指以外の4本の指を前後に動かす動作は「あっちに行け！」と追い払うような表現になることが多いです。日本では「おいで！おいで！」と手招きするジェスチャーになります。実際にその動作をしてみると、どちらにも見える動作だということが分かると思います。このとてもかわいい猫の置物「招き猫」は、片手を上げて幸せを招くと信じられています。日本の文化を表すアイテムとして、日本だけではなく海外でも広く知られています。

招き猫の意味

招き猫は、そのポーズや色によって異なる意味を持ちます。一般的に、右手を上げた招き猫は金運を招き、左手を上げた招き猫は人を招くと言われていいます。また、招き猫の色にも意味があります。例えば、白い招き猫は純粋さと幸運を表し、黒い招き猫は悪魔から守る効果があるとされています。

招き猫の歴史

招き猫の起源は、江戸時代にさかのぼります。江戸時代というのは西暦で1603年～1868年の時代のことで、侍の時代でもあります。最も有名な伝説の一つは、東京都世田谷区にある豪徳寺というお寺にまつわる話です。昔、豪徳寺の貧しいお坊さんが一匹の猫を飼っていました。ある日、その猫が片手を上げて通りすがりのえらい人を招き入れたことで、雷雨から逃れたえらい人は感謝の意を込めて寺にたくさんのお金をあげました。これがきっかけで、豪徳寺は繁栄し、猫の招く姿が「招き猫」として広まりました。招き猫の姿は江戸時代の絵画(浮世絵)や商人の店先にも描かれていました。招き猫は、多くの日本人の生活に深く関係しています。やがて、明治時代になると陶器製の招き猫が登場しました。明治時代というのは江戸時代の次の時代で、西暦だと1868年～1912年です。

招き猫は、明治時代に「縁起もの」として一気に全国に広がりました。「縁起もの」とは簡単に言うと幸せを呼ぶアイテムのことです。日本には、招き猫以外にもそういう「縁起もの」がたくさんあります。このように、招き猫は日本の歴史と共に発展し、今日に至るまで愛されています。日本人にとって招き猫は、ただの置物ではなく、幸せや希望を表す特別な存在なのです。

日本人にとっての招き猫

招き猫は日本人の生活に深く関係しており、多くの家庭やお店で見かけることができます。これは招き猫がただの飾り物ではなく、さまざまな意味や願いが込められた特別な存在だということです。

日本人の生活や文化にどのように関わっているのかを見てみましょう。

日常生活での招き猫

例えば、商売をしている家庭では、店先に招き猫を置いてお客様を招き入れ、商売が成功することを祈ります。

右手を上げた招き猫は金運を呼び、左手を上げた招き猫は人を招くとされています。私の友人は、東京スカイツリーがある東京都墨田区で小さなカフェを経営しています。レジの横にいつも招き猫を置いています。

友人は「この招き猫のおかげでお店が成功している」と冗談交じりに話してくれました。実際、お店には地元のお客様がたくさん訪れ、招き猫はその場の和やかな雰囲気を作り出しています。

また、家庭でも招き猫はよく見られます。

玄関に置かれた招き猫は、家族の安全や健康を祈るお守りとしての役割を果たしています。特に新しく家を建てたときの「新築祝い」のプレゼントとして人気があり、新しい家に幸せを運ぶと信じられています。

文化と伝統

招き猫は日本の文化と伝統に深く関わっています。

日本では猫の鳴き声は「にゃあ」「にゃん」「みゃー」などと表現します。

そのため毎年2月22日(にゃんにゃんにゃん)は「猫の日」とされ、この日に合わせて各地で招き猫に関連するイベントが開催されます。

また、招き猫をテーマにしたお祭りや展示会もたくさん行われ、観光客にも人気があります。

東京都世田谷区にある豪徳寺というお寺は、招き猫の発祥地として知られています。

最近では、海外から豪徳寺を訪れる人がたくさんいるそうです。

このお寺を訪れる人々はお寺の中に並ぶたくさんの招き猫を見ておどろくそうです。

豪徳寺には、大きい招き猫や小さい招き猫がたくさん置かれていて、その光景は圧巻です。この寺を訪れることで、招き猫がどれだけ人々に愛されているかを実感できます。

さらに、招き猫は日本の工芸品としても重要です。たくさんの職人が心を込めて一つ一つ手作りしており、その技術は親から子へと受け継がれています。

招き猫を作る過程を見学できる工房もあり、訪れる人々はそのとても細かい作業におどろいたり、感心したりします。

次に、招き猫の種類について詳しく見ていきましょう。

招き猫の種類

招き猫にはさまざまな種類があり、その違いは手の上げ方や色によって異なります。それぞれの招き猫が持つ意味について詳しく見ていきましょう。

右手を上げた招き猫

右手を上げた招き猫は、お金をたくさん運んでくれると言われていています。この招き猫は、商売の成功を願うお店の入口やレジの近くに置かれることが多いです。右手を高く上げる姿は、遠くからでも見えやすく、より多くの富を引き寄せると信じられています。「富」とはたくさんのお金のことを意味しています。例えば、銀座の老舗宝石店では、右手を上げた大きな招き猫が店の中央に置かれています。それはこのお店の「訪れるお客様に幸せを届けたい」という願いが込められています。店のオーナーは、「この招き猫のおかげでお店にたくさんお客様がきてくれる」と語っており、実際に多くの観光客がその姿を写真に収めていきます。

左手を上げた招き猫

一方、左手を上げた招き猫は、人を招く効果があるとされています。これは、商売だけでなく、家庭やオフィスでもよく見かけるタイプの招き猫です。左手を高く上げる姿は、お客さんや友人、幸福な出会いを引き寄せると考えられています。ある日本の伝統工芸品店では、左手を上げた招き猫が玄関に置かれており、店主は「この招き猫は、お客様との良い縁を結んでくれる」と話します。「縁」というのは「つながり」のことです。実際に、この店は地元の人々だけでなく、観光客にも愛され、常ににぎわっています。

色の違い

招き猫には色の違いもあります。それぞれの色にはちゃんと意味があります。一般的な白い招き猫は純粋さと幸運を表し、どの場所でも使いやすい定番の色です。黒い招き猫は悪魔をやっつける効果があり、悪運を遠ざけると言われています。さらに、金色の招き猫は金運を強調し、特に商売人に人気があります。赤い招き猫は健康と厄除けを表し、家庭の中でよく見かけます。「厄除け」というのは、不幸を遠ざけたり守ってくれるという意味です。青い招き猫は勉強や仕事が成功する効果があるとされ、学生やビジネスマンに人気です。もしあなたが日本語検定の試験を受けるなら、青い招き猫を選ぶのがいいと思います。ある学校では、青い招き猫が図書館に置かれています。生徒たちは「勉強がうまくいくように」と願いながら、その招き猫に触れるのが日課となっています。「日課」とは「毎日すること」です。これにより、生徒たちはモチベーションを高め、勉強をがんばることができています。次は、招き猫の作り方について詳しく見ていきましょう。自分で作ることで、さらに招き猫への愛着が湧くかもしれません。

招き猫の作り方

手作りの招き猫は、願いや思いを込めやすいとされています。
ここでは、必要な材料と道具、そして作り方の手順について詳しく説明します。

材料

材料は粘土、絵の具、透明のニス、この3つが必要です。
粘土は白い陶土や石粉粘土がおすすめです。
絵の具はあなたの好きな色を選びましょう。
透明のニスは仕上げ用に使います。

道具

道具はヘラ、紙やすり、筆、水入れと布の5つが必要です。
ヘラの他にスパチュラがあってもOKです。細かい部分を作るために便利です。
紙やすりは、表面を滑らかに仕上げるために使います。
筆は、絵の具をぬるために使います。
水入れと布は、道具を洗ったり、手を拭いたりするために使います。
すべてダイソーやセリアなどの100円ショップで購入することができます。
ちなみに、100円ショップを「百均」と呼ぶ日本人が多いです。
「百均」の意味は「百」は数字の100を表し、「均」は「均一」を略したもので「すべて同じ」を意味します。
ただし、最近では百均でも300円や500円の商品も売られていますので、百均で商品を買うときは値段をよく確認するようにしてください。
これらの材料と道具を揃えることで、招き猫をスムーズに作ることができます。
次に、具体的な作り方の手順を説明します。

作り方の手順

形を作る

まず、ちょうどよい量の粘土を取り、手でこねて柔らかくします。
そのあと、招き猫の基本的な形を作ります。
頭と体を一体にするか、別々に作ってあとでくっつけるかは好みによります。
耳や手、しっぽなどの細かい部分も作り、全体のバランスを見ながら整えていきます。
招き猫の写真などをみながら形をつくるとうまく作ることができると思います。

細かい部分を追加する

次に、粘土用のヘラやスパチュラを使って、目や鼻、口などの顔のパーツを細かく作ります。
手を上げたポーズもこの段階で作り込みます。
招き猫の表情やポーズは個性を出すポイントなので、自分の好みに合わせて工夫しましょう。

乾燥させる

形が整ったら、粘土を完全に乾燥させます。
乾燥には数日かかる場合がありますので、急がずにしっかりと乾燥させましょう。
乾燥が不十分だと、後の工程でひび割れが生じることがあります。

表面を仕上げる

乾燥後、紙やすりを使って表面を滑らかに整えます。
この作業で、招き猫の表面がきれいになります。
色付けが成功するかどうかはこの工程にかかっています。

色をぬる

絵の具を使って、招き猫に色をぬります。
白い招き猫の場合は、まず全体を白くぬり、そのあとで目や鼻、手の部分に色を付けます。
色の組み合わせやデザインは自由なので、自分が思うようにやってみましょう。

仕上げのニスぬり

絵具が完全に乾いたら、透明ニスをぬって仕上げます。
ニスをぬることで、色が鮮やかになり、招き猫の強度も高くなります。
ニスが乾いたら、手作りの招き猫の完成です。
自分で作った招き猫は、世界に一つだけの特別な存在になります。
作り方を学び、自分だけのオリジナル招き猫を作ってみてください。
ちなみに、招き猫を自分で作るとき、粘土から作らなくても、すでに形だけはできていて色をぬるだけでできあがるタイプの商品もあります。
あなたの好みに合わせて選んでください。
次は、招き猫をどこに置くべきかについて見ていきましょう。
置き場所にも意味があるので、ぜひ参考にしてみてください。

招き猫を正しい場所に置くことで、その効果を最大限に引き出すことができます。ここでは、家庭やお店での置き場所について詳しく説明します。

家での置き場所

家で招き猫を置く場所にはいくつかのポイントがあります。
もっとも一般的なものは玄関です。
玄関に招き猫を置くことで、家族の安全と幸運を招くとされています。
特に、右手を上げた招き猫は金運を、左手を上げた招き猫は人を招き入れるため、玄関にぴったりです。

例えば、私の友人の家では、玄関に白い招き猫を置いています。
その家族は、新築祝いとしてその招き猫を受け取り、それからずっと玄関に飾っています。友人は「この招き猫のおかげで、家族みんなが健康で幸せに過ごせています」と話しています。

次に、リビングルームもおすすめの場所です。
リビングルームは家族が集まる場所であり、招き猫を置くことで家族の絆を強め、和やかな雰囲気を作り出すことができます。
また、家族運や健康運を上げるために、赤い招き猫を置くことも良いでしょう。

勉強部屋や仕事部屋に招き猫を置くことで、集中力や成功運を高めることができます。
特に、青い招き猫は勉強や仕事の成功を願うために適しています。

学生やビジネスマンのデスクに置かれることが多いです。

お店での置き場所

お店では、招き猫を置く場所にも工夫が必要です。

最も一般的なのは、入口付近です。入口に招き猫を置くことで、多くのお客様を招き入れる効果があります。

左手を上げた招き猫が特におすすめです。

例えば、地元のレストランでは、入口の両側に大きな招き猫が置かれています。

左手を上げた招き猫は「いらっしゃいませ」とお客様を迎える役割を果たし、店内ににぎわいをもたらしています。

次に、レジカウンターやキャッシャー付近も良い場所です。

レジ付近に右手を上げた招き猫を置くことで、金運を招き、売り上げを増やす効果が期待できます。

実際に、多くの小売店やカフェでは、レジの横に招き猫を置いて金運を祈る姿が見られます。

商品棚やショーケースの上に招き猫を置くことで、商品がたくさん売れる効果があります。特に、金色の招き猫は効果が高いと言われています。

招き猫を正しい場所に置くことで、その効果をとて大きなものにすることができます。

自分の家庭やお店に最適な場所を見つけて、招き猫の恩恵を受けましょう。

次は、招き猫にまつわるきょうみ深いお話を紹介します。

これを読むことで、さらに招き猫の魅力を感じられるでしょう。

招き猫にまつわるお話

招き猫には、古くから伝わる伝説や、現代におけるきょうみ深いエピソードがたくさんあります。

ここでは、その中でも特に有名な伝説と現代のエピソードをご紹介します。

有名な伝説

招き猫にまつわる最も有名な伝説は、東京都世田谷区の豪徳寺に関するものです。

江戸時代、豪徳寺は貧しい小さな寺でした。

ある日、寺のお坊さんが飼っていた猫が片手を上げて座しているところに、一人のえらい人が通りかかりました。

えらい人は猫の仕草にきょうみを持ち、寺に立ち寄ることにしました。

すると、突然の雷雨があり、えらい人は寺に逃げました。

その後、えらい人はお坊さんと話をして、お寺の貧しい状況を知って、たくさんのお金をあげることにしました。

このお金でお寺は建物を直したりきれいにしたりしました。

お寺の中の植物もきれいに整えました。

そうしたことで、きれいなお寺だと有名になり、たくさんのお参拝者が訪れるようになりました。

「参拝者」というのはお寺を訪れて、神様に祈る人たちのことです。

そして、その当時の猫の姿が「招き猫」として広まりました。

豪徳寺には、多くの招き猫が置かれており、その数は数千匹にも及びます。

訪れる人々は、自分の願いを込めた招き猫を奉納し、寺の風景を楽しみます。

ここで1つ大切なこと「奉納」についてお伝えします。

豪徳の奉納所は猫の神様がまつられている「招福殿」の横にあります。

豪徳寺で招き猫を買って、そこに置いて帰るのではなく、招き猫はその場で願いを込めて、あなたの家まで持ち帰りましょう。

あなたの願いが叶ったら、招き猫をまたここに持ってきて奉納所に置き、神様にお返しします。

招福殿の横の奉納所にはとてもたくさんの招き猫が置かれています。

つまり、これはその招き猫の数だけ願いが叶ったことを表しているのです。

現代のエピソード

現代でも、招き猫に関するエピソードはたくさんあります。

例えば、ある日本の飲食店チェーンでは、特別な招き猫を使ってお店の宣伝を行っています。

このお店の招き猫は、特にデザインが独特で、SNSで話題となり、多くの人々が写真をとりに来るようになりました。

その結果、お店の売上げがとてもたくさん増えました。

また、招き猫の効果を信じている企業も多く、オフィスやお店の入口に置かれることが一般的です。

ある企業の社長は、「招き猫を置いてから、商談がうまくいくことが増えた」と話しています。

その会社では、社員全員が毎朝招き猫にあいさつをするのが習慣となっているそうです。

招き猫をテーマにしたアートプロジェクトも盛んです。

日本国内外で行われる展示会では、アーティストが創作したユニークな招き猫が展示され、多くの観光客やアート愛好家たちを惹きつけます。

特に、招き猫の形や色を自由にアレンジした作品が注目を集めています。

このように、招き猫は古くからの伝説だけでなく、現代においてもさまざまな形で人々の生活にいきょうを与えています。

招き猫のみりよくを知ることで、日本文化への理解がさらに深まるはずです。

ぜひ、身近な場所で招き猫を見つけ、そのみりよくを感じてみてください。

次は、招き猫を楽しむ方法について見ていきましょう。コレクションや遊びとしての楽しみ方を紹介します。

招き猫の楽しみ方

招き猫は、見るだけでなく、集めたり遊んだりすることでさらに楽しむことができます。ここでは、招き猫のコレクションの方法と、招き猫を使った遊びについて紹介します。

コレクションの方法

招き猫をコレクションすることは、多くの人にとって楽しいしゅみとなっています。

招き猫にはさまざまな種類やデザインがあり、集める楽しさは尽きません。

コレクションの始め方や楽しみ方をいくつか紹介します。

コレクションの始め方

まず、コレクションを始めるには、自分の好きなテーマを決めると良いでしょう。

例えば、色やポーズ、産地などでテーマを設定します。これにより、集める範囲が絞られ、選びやすくなります。

例えば、青い招き猫を集めることに決めたら、日本全国の土産物屋やネットショップで探してみましよう。
特定のテーマに沿って集めることで、コレクションに一貫性が生まれ、見た目にも美しくなります。

コレクションの保管方法

次に、コレクションをどのように保管するかが重要です。
専用の棚やガラスケースを用意すると、招き猫をきれいに展示できます。
ガラスケースはほこりから守るだけでなく、見栄えも良くなります。

例えば、私の知り合いは、リビングルームに特別なガラスケースを置き、そこで色とりどりの招き猫を展示しています。
訪れる友人たちは、その美しさにおどろき、会話がもっと楽しいものになります。

コレクターズイベント

さらに、招き猫のコレクターズイベントに参加することもおすすめです。
全国各地で行われる展示会や販売会では、珍しい招き猫が販売されていたり、他のコレクターと交流することができます。
新しい情報やコレクションのヒントを得る絶好のチャンスです。

招き猫を使った遊び

招き猫はコレクションだけでなく、遊びの道具としても楽しむことができます。
ここでは、いくつかの楽しい遊び方を紹介します。

招き猫さがし

まず、招き猫さがしという遊びがあります。
これは、家の中や庭などにかくされた小さな招き猫を見つけるゲームです。
子供たちと一緒に楽しむことができ、探しながら招き猫のみりよくを再発見することができます。

例えば、ある家族は、週末に庭で招き猫さがしをするのが習慣です。
子供たちは宝さがしのような感覚で、見つけた招き猫にまつわる話を聞くのを楽しみにしています。

招き猫お絵かき

次に「招き猫お絵かき」も人気の遊び方です。
白い招き猫のフィギュアに、自分の好きな色や模様を描くことで、オリジナルの招き猫を作ることができます。
この活動は、創造力を刺激し、家族や友人と一緒に楽しむことができます。

例えば、友人同士で集まって招き猫をデザインするパーティーを開くと、各自の個性が光るユニークな招き猫が誕生します。

その作品を見せ合いながら、笑い声が絶えない楽しいひとときが過ごせるでしょう。

招き猫フォトコンテスト

招き猫フォトコンテストを開催することも一つの楽しみ方です。
自分のコレクションや手作りの招き猫をテーマに、写真をとってコンテストに応募します。
インターネット上でコンテストが開催されることも多く、世界中の招き猫ファンとつながることができます。

このように、招き猫にはさまざまな楽しみ方があります。
コレクションや遊びを通じて、さらにそのみりよくを感じることもできるでしょう。
次は、招き猫に関する言葉について見ていきます。

招き猫に関する言葉

招き猫は、日本文化における重要なシンボルであり、その言葉や表現には多くの意味がこめられています。
ここでは、招き猫に関する日本語、英語、その他の言葉について詳しく説明します。

招き猫の日本語

招き猫は、日本語で「まねきねこ」と読みます。
「招き」は「招く」という意味があり、「猫」はそのまま「ねこ」を指します。
つまり、招き猫は「招く猫」という意味になります。

招き猫に関する日本語には、いくつかのきょうみ深い表現があります。
例えば、「右手を上げる」と「左手を上げる」というフレーズがあります。
右手を上げる招き猫は金運を招くとされ、「右手を上げる招き猫がいると、お金が入ってくる」という言い回しが使われます。
逆に、左手を上げる招き猫は人を招くため、「左手を上げる招き猫はお客様を呼び寄せる」と言われます。

また、「福を招く」という表現もよく使われます。
これは、招き猫が幸運や幸福をもたらすとされることから来ています。
「福を招く招き猫を置くと、家族みんなが幸せになる」といった形で使われます。

招き猫の英語

招き猫は英語では「Lucky Cat」または「Maneki Neko」と呼ばれています。
英語圏でもそのまま「Maneki Neko」と表記されることが多く、日本独特の文化として親しまれています。

「Lucky Cat」という表現は、招き猫が幸運を招くという意味から来ています。
例えば、観光ガイドブックや日本文化に関する記事では「The Lucky Cat is a traditional Japanese symbol that brings good fortune and prosperity」という説明が見られます。
これは「招き猫は、幸運と繁栄をもたらす日本の伝統的なシンボルです」という意味です。

また、アニメや映画などのポップカルチャーでも「Lucky Cat」として紹介されることが多く、世界中でその可愛い姿が親しまれています。

その他の言葉

招き猫に関連する言葉は、日本語や英語だけではなくありません。世界各国で招き猫は親しまれ、その土地ごとの言葉や表現が存在します。

例えば、中国では「招财猫」(Zhāo cái māo)と呼ばれます。これは「財を招く猫」という意味で、中国の文化でも金運や幸運をもたらすシンボルとして広く知られています。

韓国では「복고양이」(Bok goyangi)と呼ばれ、「福をもたらす猫」という意味です。

さらに、フランスでは「Chat Porte-Bonheur」(シャ・ポルト・ボヌール)と呼ばれ、「幸運を運ぶ猫」という意味です。フランスの日本料理店やアジア雑貨店で見かけることができます。

このように、招き猫は世界中でさまざまな名前や表現で親しまれています。それぞれの国や文化によって異なる意味を持ちながらも、共通して幸せを運んでくれるシンボルとして愛されています。

今、なぜ外国人に日本の招き猫が大人気なのか

近年、招き猫は日本国内だけでなく、世界中で大人気となっています。外国人が招き猫にみりょうされる理由には、さまざまな理由があります。ここでは、その理由について詳しく見ていきましょう。

日本文化への関心の高まり

まず、招き猫が外国人に人気の理由の一つは、日本文化への関心の高まりです。アニメやマンガ、和食など、日本のポップカルチャーや伝統文化が世界中で注目を集めています。その中で、招き猫は日本文化を表す重要なアイテムとして広く知られ、多くの外国人がきょうみを持つようになりました。

例えば、アメリカやヨーロッパの観光客は、日本の土産物店で招き猫を見つけると、その可愛いデザインと意味にみりょうされます。観光客の中には、招き猫を買って家に飾ったり、友人へのお土産にする人も多いです。

幸運を招くシンボル

次に、招き猫が外国人に人気の理由は、その幸運を招くシンボルとしての意味です。招き猫は、右手を上げることで金運を、左手を上げることで人を招くとされています。

例えば、あるアメリカのビジネスマンは、日本出張のときに買った招き猫をオフィスに置いています。

彼は「この招き猫がオフィスに幸運をもたらしてくれる」と信じており、同僚たちもその効果を期待しているそうです。

インスタグラムなどのSNSのえいきょう

インスタグラムなどのSNSも、招き猫の人気を後押ししています。旅行者や日本文化愛好者が招き猫の写真をSNSに投稿し、その美しさやみりよくが広まっています。特に、ユニークなデザインやカラフルな招き猫は、SNS映えするため、多くの「いいね！」やコメントを集めます。

例えば、あるフランスのインフルエンサーは、日本旅行中に訪れた豪徳寺の招き猫の写真を投稿し、多くのフォロワーから「美しい」「日本に行きたくなった」といった反応を得ました。これにより、さらに多くの外国人が招き猫にきょうみを持つようになります。

日本の土産物としてのみりよく

招き猫は日本を代表する土産物としても人気があります。手軽に持ち帰ることができ、価格も手頃なため、観光客にとって理想的な土産物です。また、招き猫のしゅるいやデザインはたくさんあり、個性豊かな一品を見つける楽しさもあります。

例えば、カナダから訪れた観光客は、招き猫を見てその可愛さに一目惚れし、家族や友人へのお土産としてたくさん買いました。彼らは「日本の思い出として最高のお土産だ」と喜んでいました。「一目惚れ」とは、一瞬それを見ただけでとても好きになってしまうという意味です。

このように、外国人が日本の招き猫にみりようされる理由はたくさんあります。日本文化への関心、幸運を招くシンボルとしての意味、SNSのえいきょう、そして日本を代表する土産物としてのみりよくなどが合わさって、招き猫は今や世界中で愛される存在となっています。

日本にきょうみがある皆さん、ぜひ日本を訪れて招き猫のみりよくを直接感じてみてください。歴史ある豪徳寺で数多くの招き猫に囲まれたり、東京の土産物店でカラフルで個性的な招き猫を見つけたりすることができます。自分だけの特別な招き猫を手に入れて、家族や友人へのお土産にもおすすめです。日本の美しい文化を体験し、招き猫を通じてあなたの人生に今よりもっと幸せが訪れることを願っています。

「日本の招き猫」は、いかがでしたか？

今後の動画制作に活かしますので、感想を是非コメント欄から教えてください。

それでは、また別の動画でお会いしましょう。



Japanese-listening-SUSHI

